

～ふるさと大使 春風亭一左と仲間が贈る～

落音会

第77回たばこ祭り共催行事

RAKU-ON
KAI



石井貴子



大迫杏子



はだのふるさと大使
春風亭一左



猪俣昌也

おめでとう!!
秦野たばこ祭

落語とダップダンス、ポピュラーミュージックの競演が
魅せる至高のひと時をお楽しみください

2024年9月28日(土) 14:00 開演
本町公民館多目的ホール

主催／秦野市立本町公民館

共催/春風亭一左後援会・クアーズテック秦野カルチャーホール

TAP DANCE

猪俣昌也 (タップダンサー)

【プログラム】

- 1.東京ブギウギ
- 2.夏の終わり
- 3.アカペラタップ etc



秦野市出身。東京理科大学大学院を修了し、一般企業に就職。2010年にタップダンスと出会い、その魅力に引き込まれ、数年後企業を退職しタップダンサーの活動を開始。2017年に板とタップシューズを持ってジャズの街ニューオリンズへ渡り、現地ミュージシャンとセッションを重ねライブ出演を果たす。2019年より漫才協会タップダンス部の講師を務めている。

大学でまちづくりを専攻していた経験から、地元秦野市をタップダンスで盛り上げるため「HADANOTE/ハダノオト」というプロジェクトをスタート。2020年2月にタウンニュースホール、2023年4月に文化会館で単独公演を行い、大成功をおさめた。神奈川県・東京都を中心にレッスンやワークショップ、その他にも多くのミュージシャンとのライブ、ダンスイベント・マルシェに出演など幅広いパフォーマンスを行いながら、独自のタップダンスの可能性を探究し続けている。

popular music

石井貴子 (ヴァイオリニスト)



秦野市出身。

4歳よりピアノを、9歳よりヴァイオリンを始める。2001年洗足学園音楽大学弦楽器コース卒業。大学在学中よりクラシックだけでなく様々なジャンルの音楽に興味を持ち、演奏活動を開始。2004年コロムビアミュージックエンタテインメント(現・日本コロムビア)よりヴォーカルとヴァイオリンのユニット「つきよみ」メジャーデビュー。3枚のシングルCDをリリースし、ドラマの主題歌や情報番組のテーマソングになった。

2005年NHK歌謡コンサートに出演。文化放送でラジオのパーソナリティーを務める。2007年「つきよみ」の活動を休止。現在、これまでの幅広い活動の経験を生かし、秦野市の文化芸術の発展を目的に活動する「ハダノ・アート・コモン」の代表を務め、定期的にコンサートの企画や演奏をしている。

大迫杏子 (作曲家・編曲家・キーボーディスト)

町田市出身。

幼少よりクラシックピアノを学ぶ。青山学院大学在学中にキーボーディストとしてバンドを始め、卒業後、音楽学校メーザー・ハウスを経て、2004年「ディズニーオンクラシック」全国ツアーで第2キーボーディストに抜擢され、本格的にプロとしての活動を始める。

現在はレコーディング・ライブサポート、劇伴やCM音楽制作の分野で活動中。オーケストラ編成での演奏経験も豊富。

2016年小作品集「#0」を、2024年二作目の作品集「inside to outside」を発表。

著書「手軽にできる!! ポータブル・キーボード活用術」発売中。

【プログラム】

1. Don't stop me now
2. うたかた
3. 情熱大陸
4. 糸





RA-KU-GO 落語



春風亭一左 (落語家・落語協会所属、本名:鶴見一也)



秦野市弥生町生まれ。

西小・西中学校、伊志田高校を卒業。武蔵野工業大学(現東京都市大学)中退。

元々芸の世界に憧れていて、大学中退後は、漫才を試してみたり、劇団に入ったりしていた。

そんな中、鈴木演芸場で春風亭一朝の落語に出会い、即入門を決意。2024年11月25歳で一朝師匠に弟子入りし、翌年8月21日に日に楽屋入り。前座名は「一左」。2008年11月11日に二つ目昇進。2014年「第13回さがみはら若手落語家選手権」入賞。

2020年3月21日に、秦野市出身の初の落語家として真打に昇進、同時に「はだのふるさと大使」に就任。

落語協会サーフィン部副部長

演目は、お楽しみに!!

FINALE

「上を向いて歩こう」を石井貴子と大迫杏子の美しい伴奏で

春風亭一左と猪俣昌也が華麗なタップダンスを披露します

サーフィンとテニスで鍛えた一左師匠のステップに注目!!

異色の組み合わせに手拍子・拍手・掛け声、大歓迎!!



～ 炎が舞い 光が奏でる 秦野たばこ祭 ～

9月28日(土)・29日(土)

秦野市最大の観光イベント「秦野たばこ祭」。今年で77回目を迎えますが、昭和23年に秦野発展の礎を築いてきた、たばこ耕作者の労をねぎらうとともに、産業の発展を願って始められた伝統ある祭りです。

「葉たばこ耕作」は、昭和59年に300余年の長い歴史に幕を閉じましたが、先人たちが「葉たばこ耕作」に注いだ情熱は、人が変わり時代が流れても、変わらず秦野市民の心に脈々と受け継がれています。

先人たちの情熱は、「秦野たばこ祭」の炎となって燃え上がり、松明、らんたん、大輪の花火とともに秦野盆地を鮮やかに彩ります。そして、多くの市民が主役となる伝統の「たばこ音頭バレード」や「ジャンボ火起こし綱引きコンテスト」など多彩な行事で盛り上がります。



打上花火



秦野葉



下葉の収穫



秦野葉の収納

葉のし作業



たばこ音頭バレード